

令和5年度障がい福祉分野の I C T 導入モデル事業 事例報告

＜法人名：一般社団法人テトラcoco＞

＜事業所名：テトラcocoアニー谷町＞

事業所概要

サービス種別 (複数ある場合は主たるサービス)	放課後等デイサービス
所在地	大阪市天王寺区生玉前町1-17 イトーピア谷町ビル10階
職員数 () 内は常勤換算数	12人
事業所の特徴	18歳以下の子どもに対する、発達アセスメント、支援計画の作成、個別学習指導、集団コミュニケーション指導、発達相談、その他関連業務。

I C T 導入の背景・目的

➤ 導入前の状況

- 日々の支援記録が全て手書きの資料となっており、書字のミスによる書き直しや、保護者様への記録の送付、実績記録への押印の回収に多くの時間がかかっており業務負担が高い。また、月末に請求データを作成するにあたって、支援記録と実績記録、業務日報等からデータを集め、手入力に相当な時間がかかっている。
- 加えてミスを防ぐために複数人数でWチェックを行っており月末の業務負担が高い。

➤ 導入の目的

- iPadをスタッフ1人に1台を支給し、指導の記録や日報を即時に入力し手書き業務や転記入力を削減する
- 支援の記録をiPadに入力することで実績記録表の作成、実績記録へのデジタル署名、請求データの作成まで一貫できるソフトウェアを導入し、日常の業務や月末の請求業務の負担を大幅に低減する

導入機器

➤ 導入する I C T の検討

- iPad、ノートPC、モバイルPC、ソフトウェア（請求業務関連）、通信環境機器（UTM）

➤ 導入した I C T

- iiyama SOLUTION-14FH120-i7-UCFX（パソコン）
- Inspiron 14 ノートパソコン
- Apple iPad 第9世代（タブレット）
- NISG6000Std-W N3（UTM）
- デイロボ（請求業務ソフト）

I C T 導入の実施体制の整備

➤ 職場内の研修

- デイロボの操作については、実際に操作して使用方法を理解している職員から全体会議の場で周知を行った。利用を進めていくにあたって懸念される事項はその場で共有し、ルールを定めるなどしてスムーズに運用できるようにした。
- デイロボの担当者の方とは毎月請求業務が始まるタイミングで打ち合わせを行い、疑問点を解消しながら進めた。
- マニュアルを作成し、全職員に共有を行った。

➤ 関係者（利用者・家族等）への説明等

- 利用者への連絡として、文書での配布やLINEでの通知により周知を行った。
- 本格的に運用を開始する前に試験運用期間（1か月）を設け、利用者の方にゆとりをもって準備していただけるようにした。

効果検証

		導入前（時間）	導入後（時間）	削減率（%）
記録業務				
	・ 支援記録の作成	年間480時間 (ひと月240件、1件当たり 10分として計算)	年間480時間 (ひと月240件、1 件当たり10分とし て計算)	0%
請求業務				
	・ 利用のWチェック ・ 請求データ作成 ・ 請求データの確認・送信	年間72時間 (ひと月1件、1件当たり6 時間計算)	年間48時間 (ひと月1件、1件 当たり4時間計算)	4.3%

- 請求業務については、時間を大幅に減らすことができた。これまでは手作業や人の目で確認している部分も多く、それ故に同じことを何度も確認する必要があったが、ソフトを導入したことでそうした確認の作業も減らすことが出来た。浮いた時間は他の業務（特に支援の方法を考えたり、準備をする時間）に充てることが出来るので、サービスの質を向上させることが出来ている。